

運動会、感動をありがとう！～1組編～

9月4日(土)に運動会が行われました。練習期間が短くコロナ禍の制限もある中、両団それぞれ一丸となって競技や演技に全力で臨みました。運動会が終わった後、多くの1、2年生が「楽しかった」と言っていました。それは3年生団役員が中心となり、一生懸命に全体を引っ張ってきたおかげだと思います。練習はいろいろ大変でしたが、最後まで諦めずに精一杯やりきり、それを乗り越えられたことが大きな感動をつくり、充実感や達成感を得ることが出来たのではないのでしょうか。この経験を、是非次につなげていきましょう。

みなさんが書いてくれた作文を読むと「最高の運動会だった」という言葉が多く目立ちました。また、どの人も共にたたかった仲間や後輩たち、そして相手の団への感謝の気持ちがつづられており、みなさんの温かさを感じる素晴らしい行事だったと思います。

ダンスリーダーとして成功をめざす

僕は他のダンスリーダーほどではないが、皆の力になれたのではないかと思います。初めてのダンスリーダーで皆を教える立場になり、最初は心配だったけど、やっていくうちに不安も消え、運動会が終わった時、達成感がありました。正直、ここまで自分達についてきてくれると思わなかったのだから、僕はとても嬉しい気持ちになりました。毎年、3年生ダンスリーダーは運動会を成功させたいと思っていて、そのためにどうしていくかなど考えていたのかと思うことができました。何か一つのことを作り上げる時、必ずそれを成功させたいと思う人がいて、僕はそのような人たちの気持ちを今回の運動会で知ることができました。これからの僕は、何事にも真剣に取り組んでいきたいと思いました。

練習を積んで行事に参加する

僕達の青団は負けました。悔しかったです。しかし、僕には心に残ったことがありました。

1つ目は、青団のみんなと楽しくダンスの練習をしたことです。僕はダンスを覚えるのが遅かったのに1・2年生はウォームアップの少ない時間でほとんど覚え、全員で楽しそうに踊っていたので良かったと思いました。

2つ目は、本番に楽しく競技に参加できたことです。コロナ禍の大変な中で競技の内容やルールを考えてくださり、ありがたいと思いました。

運動会に向けてたくさん練習して良かったと思いました。これからある行事にも一生懸命取り組みたいと思いました。

心温まる運動会

今回の運動会を通して、私は仲間のあたたかさをとても感じた。それは本番だけでなく、準備の段階からだ。

私たち執行部は、夏休み中、学校に行ってスローガン旗を作っていた。でも私は部活も有り、少しの時間しか手伝えなかった。とても迷惑をかけてしまったと思う。それでも執行部の方に行くと、毎日「おはよう」とか「お疲れ」と声をかけてくれて、とても心が温まった。

本番ではミスしてしまった人を責めることなく、むしろ励ましている人を何人も見た。また、ダンスで相手の団の発表を拍手でたたえ、優しさも感じられた。

この運動会で安中プライドの「思いやり」を具現化できたと思う。全体を通して成功で終わることができて良かった。

団長としての成長

僕の3年間の最後の運動会は、青団の団長を務め、みんなを引っ張り頑張りました。最初は先生にも心配されていたけど、団活の回数を重ねていくうちに、段々と団長らしくなると言われ、とても嬉しかったです。青団は運動会で負けてしまったけど、団長として終わることができて良かったと心の中で感じていました。そして、みんなも最初は何もやる気がなくて、僕は不安だったけど、練習を重ねるごとに、ダンスを真剣に取り組み、僕よりも早く成長していました。この運動会は全校生徒が成長できた運動会になったのではないかと思います。

仲間と協力しながらの挑戦

9月4日運動会。両団の団長の宣誓であった通り、楽しんでやろうと思い、自分から拍手をしたりして盛り上げることができたと思う。赤団のダンスが楽しそうで、すごいと思った。私たちは赤団に負けられないように笑顔で楽しそうに踊ろうという目標を達成できたと思います。総合では青団は負けてしまったけど、自分の中では青団が優勝だと思っているので、最高の運動会になったと思う。

この運動会で縦のつながりが深まったと思う。1・2年生とも仲良くなれたので良かった。みんなと協力して団結力も高まったし、仲間の大切さが分かった。これからも仲間と協力して、いろいろなことに挑戦していきたい。

経験を生かし、文化祭の運営を

運動会は、私にとって「良い思い出」と「良い経験」になった。

良い思い出とは、1日中行動し続けたということです。出場した種目と、報道委員の仕事があった種目を合わせると、ほとんどの種目に関わっていました。運動会のメイン競技でもあるリレーにも出場し、走り切れたので悔いはありません。

良い経験とは、ONとOFFの切り替えが身に付いたり、一つの物事を成功させるためには、裏方として頑張っている人が必要不可欠だと知ったことです。今回、後悔のないように全力で楽しみ、また楽しむだけでなく最後の後片付けも率先して行うことができました。僕は運動会の成功に向かって頑張る執行部を見て、文化祭では僕もそういうふうに関わりたいと思いました。

諦めずにやり抜く

僕は運動会を通し、成長できたと思いました。僕はダンスが苦手で、正直運動会が嫌いでした。でも最後の運動会でダンスを頑張ってみようと思いました。最初はうまくいかず、全然覚えることができませんでした。それでも諦めずに何度もやっていくうちに、段々体が動くようになってきました。今まで苦手だったダンスも、少し楽しいと思えるようになりました。

そして、迎えた本番では今までで一番いいダンスを踊ることができ、思い出に残る運動会にすることができました。

今回の経験から、すぐに諦めず、やり遂げようとする大切さを学びました。

協力することの本当の意味

私は、ダンスにやりがいや達成感を感じることができた。それは練習でとても苦労したからだ。最初は、練習すれば練習するほどダンスが嫌いになり、正直「本番なんてなくていいのに」と日々思っていた。楽しくないと勝手に決めつけていた。しかし違った。予想とは違い、とても楽しかった。ここまでダンスが楽しいと思ったのは、今回が初めてだった。

本番を通して、私は努力の大切さ、仲間を信じる大切さなど、多くのことを学んだ。決して一人だけで分かったことではなく、皆で行ったからこそ、学べたことだと思う。ダンス以外の競技も力を合わせることで完成する。「協力」とは何か、本当に学ぶことができた。

今後も、この気持ちを忘れず、何かに生かしていきたい。

